

ハーモニー

Harmony

第44号 2007年9月1日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目 次

| | |
|--------------------------------------------------|---|
| 第15回学術集会プログラム | 2 |
| 学術集会（札幌）の企画紹介 | 5 |
| 日本養護教諭教育学会2007年度総会告示 | 5 |
| 役員を選出にかかわる規約等の改正（案）について | 5 |
| トピックス | |
| 中教審「スポーツ・青少年分科会」における 学校健康・安全部会の動向 | 6 |
| 特別企画—私の県の「ここが特色」⑤ 青森県総合学校教育センターに養護教諭経験者指導主事配属 | 7 |
| 新・特別企画「私の実践と研究」リレー・レポート③ —活動を中心とした保健学習— | 7 |
| 学会誌第11巻第1号の投稿原稿受付中 ～締め切り迫る～ | 8 |
| 理事会からのお知らせ | 8 |
| 事務局からのお知らせ | 8 |
| 編集後記 | 8 |

日本養護教諭教育学会第15回学術集会プログラム

メインテーマ：養護教諭が養護教諭であるために

期 日：2007年10月6日（土）10時～10月7日（日）16時10分

会 場：北翔大学 北方圏学術情報センター PORT

〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 TEL:011-618-7711（代）

〔アクセス〕＊新千歳空港—（JR）—新札幌で地下鉄東西線に乗り換え—西18丁目下車—徒歩5分（約50分）

＊新千歳空港—（JR）—札幌駅で地下鉄南北線に乗り換え—大通で地下鉄東西線に乗り換え—西18丁目下車（1番出口）—徒歩5分（約50分）

10月6日（土） 10：00 開場 12：00～ 受付

◇プレコングレス（10：30～12：00）第Ⅱ、第Ⅳ会場

①養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第一版〉に関する意見交流…………… 理事会

②養護教諭をめぐる現代的課題—例えば、管理職登用、人事考課、職務内容—について考える

…………… ○山崎隆恵（神奈川県立藤沢総合高等学校）他

◇特別講演（13：30～15：10）第Ⅰ会場 …………… 座長 津村直子（北海道教育大学札幌校）

「津波が変えた私の人生 地域とのかかわり」

道下俊一（町立浜中診療所名誉所長）

◇シンポジウム（15：20～17：20）第Ⅰ会場 …………… 座長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

テーマ：養護教諭であることの探究—専門性を生かした養護実践のこれからを問う—

シンポジスト：○平川俊功（埼玉県立養護学校さいたま桜高等学園養護教諭）特別支援学校の実践から

○高木洋子（静岡県浜松市立曳馬中学校養護教諭）複数配置校の実践から

○横堀良男（北海道美深町立仁宇布小中学校養護教諭）小中併置校の実践から

10月7日（日） 8：40～ 受付

◇一般演題（9：10～11：10）

第Ⅰ会場

（9：10～10：00）…………… 座長 鈴木裕子（横浜市教育委員会）

I-1 知的障害児家族のケア能力を高めるために養護教諭が行った支援行為とその要因

○中下富子（埼玉大学）他

I-2 養護教諭の専門性を生かした特別支援教育コーディネーターの在り方

～T中学校の実践から～

○林 典子（愛知教育大学大学院）

I-3 特別支援学校における学生ボランティアの自己評価に関する一考察

○安林奈緒美（飯田女子短期大学）

（10：10～10：40）…………… 座長 古賀由紀子（九州看護福祉大学）

◇学会助成研究Ⅰ 保健学習の実践から見た養護活動 ○中島栄子（茨城県水海道第二高等学校）他

（10：40～11：10）…………… 座長 富田 勤（北海道教育大学札幌校）

◇学会助成研究Ⅱ 養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討

—「養護概説」担当者による分析— ○斉藤ふくみ（熊本大学養護教諭特別科）他

第Ⅱ会場

- (9:10～10:10) …………… 座長 鈴木 薫(岡山大学教育学部附属小学校)
- Ⅱ-1 中高生のめまいの要因からみた自律神経機能の発達支援 ○安藝敦子(徳島文理中高等学校) 他
- Ⅱ-2 小学生における目の疲労感の自覚と視力低下の予防行動との関連
○竹内理恵(徳島県立総合教育センター) 他
- Ⅱ-3 「対象喪失」という視点を重視した健康相談活動に関する研究ー内科系・外科系の事例を通してー
○菊池美奈子(大阪府立箕面東高等学校) 他
- (10:10～11:10) …………… 座長 天野敦子(前弘前大学)
- Ⅱ-4 エイズや性感染症に関する学生の認識度 ○辻 立世(兵庫大学) 他
- Ⅱ-5 デートDVの視点による青年期の実態意識と実態
～デートDV尺度の作成と性差の構造比較～ ○長谷川江里子(新潟県魚沼市立須原小学校) 他
- Ⅱ-6 小学校におけるカフェテリア方式性教育のシステム構築に関する研究
○江寄和子(京都市総合教育センター研究課) 他

第Ⅲ会場

- (9:10～10:10) …………… 座長 吉田瑠美子(前北海道教育大学附属養護学校)
- Ⅲ-1 大正期学校養護思想の提唱者 石原喜久太郎 ○杉浦守邦(山形大学)
- Ⅲ-2 養護教諭一校一人制配置の背景に関する調査研究…………… ○菱沼ゆう(仙台市立向陽台中学校)
- Ⅲ-3 子どもにとって保健室はどのような場所であり養護教諭はどのように映っていたか
ー大学生への調査から今回はネガティブな部分に焦点を当てー ○石川フカエ(福岡県立大学)
- (10:10～11:10) …………… 座長 三村由香里(岡山大学)
- Ⅲ-4 養護教諭専攻学生と非専攻学生の大学キャンパス内禁煙措置に対する意識の比較
○安林幹翁(中部大学) 他
- Ⅲ-5 大学生の飲酒の意識及び実態に関する研究
○斎藤千景(東京学芸大学・東京都立六本木高等学校) 他
- Ⅲ-6 男性養護教諭に対する意識調査 ○田邊太郎(佐賀県立鳥栖工業高校) 他

第Ⅳ会場

- (9:10～10:10) …………… 座長 石崎トモイ(新潟青陵大学)
- Ⅳ-1 ライフストーリーから捉えた養護教諭の資質能力の形成 ○小原史恵(北翔大学) 他
- Ⅳ-2 健康相談活動における養護教諭へのアンケート調査からの一考察 ○西岡かおり(四国大学) 他
- Ⅳ-3 養護教諭の日常の養護実践活動において感じる困難感と研修ニーズ
○佐光恵子(上越教育大学) 他
- (10:10～11:10) …………… 座長 鎌田尚子(女子栄養大学)
- Ⅳ-4 養護教諭の地域におけるネットワーク作りの視点(第1報)
ー養護教諭が捉えたニーズー ○出原嘉代子(習志野市立屋敷小学校) 他
- Ⅳ-5 養護教諭の地域におけるネットワーク作りの視点(第2報)
ー小中学校合同保健委員会及び地域保健連絡会のプロセスの展開に着目してー
○亀崎路子(聖徳大学短期大学部) 他
- Ⅳ-6 母親が小・中学生のダイエットに関する意識や行動に及ぼす影響 ○奥田紀久子(徳島大学)

◇ポスターセッション（9：10～15：30 掲示）第V会場

PIブロック

（9：20～10：00）…………… 座長 山吹はるえ（札幌市立真駒内南小学校）

P-1 健康教育を保健室経営に活かすアプローチ

—子どもの自己成長を育むための養護教諭のかかわり— ○鈴木美代子（川崎市立下河原小学校）

P-2 中学生期における選択理論導入の試み

○沢田有香（金沢大学教育学部附属中学校）

P-3 高等学校における保健教育に関する検討

—高校生を対象とした意識調査から—

○高田幸子（北海道函館中部高等学校）

（10：20～11：00）…………… 座長 楠本久美子（四天王寺国際仏教大学短期学部）

P-4 高校生における構成的グループエンカウンターと自己肯定感および心の健康の関連

○牛島紗和（横浜市立港南中学校）他

P-5 養護教諭が兼職発令を受けるまでの経過および保健学習の取り組みに関する分析

○廣田幸恵（熊本大学大学院教育学研究科）他

P-6 中学生の朝食・睡眠における行動変容と自己効力感との関連

○中山弘美（熊本大学大学院教育学研究科）他

PIIブロック

（9：20～10：00）…………… 座長 小林央美（弘前大学）

P-7 養護教諭の慢性疾患の子ども支援における養護計画（試案）

—普通学校在籍の糖尿病生徒の事例での検討—

○葛西敦子（弘前大学教育学部）他

P-8 学校医の閉鎖療法に関する意識調査

—救急処置における学校医と養護教諭との連携を考える—

○渡邊祐子（弘前市立船沢中学校）他

P-9 児童が抱くストレスの実態とストレス・マネジメントの検討

○黒原有香（北翔大学）他

（10：20～11：00）…………… 座長 竹本礼子（札幌市立中央小学校）

P-10 学校体験の導入～実り多い養護実習をめざして～

○満田タツ江（鹿児島女子短期大学）

P-11 養護実習前後における学生の自己評価の検討

○小川美幸（北翔大学）他

P-12 養護教諭として臨床実習のあり方—目標と評価の視点—

○石田妙美（東海学園大学）他

◇教育講演（11：20～12：20）第I会場…………… 座長 三木とみ子（女子栄養大学）

「特別支援教育における養護教諭の専門性」

飯野順子（前筑波大学）

◇ランチョンセミナー（12：30～13：20）第I会場

「小児のメタボリックシンドローム」

田島敏広（北海道大学医学部小児科）

◇総会（13：30～14：30）第I会場

◇ワークショップ（14：40～16：10）第II、第III、第IV会場…………… 運営責任者 学術集会実行委員

①ケース・スタディ…………… 岡田加奈子（千葉大学） 竹鼻ゆかり（東京学芸大学）

②安全教育…………… 佐々木貴子（北海道教育大学札幌校）

③インシデント・プロセス…………… 今野洋子（北翔大学）他

学術集会（札幌）の企画紹介

学会長 津村 直子

北海道ではじめて本会を開催することになり、事務局員一同、皆様方をお迎えする準備を進めております。

第15回学術集会のメインテーマは「養護教諭が養護教諭であるために」としました。これまでの本会が果たしてきた役割と成果をもとに、改めて養護教諭の専門性を支える研究能力や実践力を、原点にもどって見つめてみようという思いで掲げました。

学術集会1日目は、特別講演とシンポジウムを企画しました。

特別講演は、北海道の僻地で47年の長きにわたり地域の人々の健康を支え続けた医師の道下俊一氏にお願い致しました。氏については道民はもちろんですが、2003年のNHKプロジェクトX、今年6月の2時間ドラマで全国に放映されましたので、ご存じの方も多いと思います。

シンポジウムはメインテーマを受けて「養護教諭であることの探究—専門性を生かした養護実践のこれからを問う—」としました。後藤理事長にコーディネートしていただき、シンポジストは特別支援学校の立場から平川俊功氏、養護教諭の複数配置校の立場から高木洋子氏、小中併置校の立場から横堀良男氏にお願い致しました。

2日目は一般演題、教育講演、ワークショップを企画しました。

一般演題は33題（口演21題、ポスターセッション12題）の申込みがありました。はじめて研究発表を行う新人の会員から、長く本会で活躍されている会員の発表まで様々な専門分野の演題が集まりました。

教育講演は、特別支援教育と養護教諭の専門性について取り上げました。今年の4月から特別支援教育が学校教育法に位置づけられましたので、会員の皆様の関心は高いと思います。講師には養護学校における医療的ケアの実現に長年ご尽力されました飯野順子氏にお願い致しました。

ワークショップの内容は、岡田加奈子氏・竹鼻ゆかり氏による「ケースメソッド」、佐々木貴子氏による「安全教育」、今野洋子氏による「インシデント・プロセス」です。参加者を制限する会場がありますのでご注意ください。

企業による持ち込み企画であるランチョンセミナーは、北大小児科の田島敏広氏により「小児のメタボリック症候群」についてわかりやすいお話しが

あります。また、1日目のシンポジウム終了後に懇親会を開催致します。北海道の味覚を十分満喫していただける食材をたくさん用意しております。

以上の年次学会の企画に加えて、学会事業である学会助成研究「保健学習の実践から見た養護活動」、「養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討」の発表があります。

また、はじめての試みとして1日目の午前10時30分から12時まで、プレコンgressを設定しました。テーマは本学会の理事会による「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集に関する意見交流」、山崎隆恵氏による「養護教諭をめぐる現代的課題」です。どなたでもお気軽にご参加下さい。

北海道は学会員の数は最も少ない状況ですが、本会の準備にあたり、わずかですが入会者も増えております。

全国の会員の皆様方のご参加とご協力を心からお待ち申し上げております。

日本養護教諭教育学会 2007年度総会告示

理事長 後藤ひとみ

下記の日程で2007年度総会を開催します。

- ◇日時 2007年10月7日（日）
13:30～14:30
- ◇場所 北方圏学術情報センターPORT
- ◇議題
1. 2006年度事業報告
 2. 2006年度決算報告
 3. 2007年度事業経過報告
 4. 2007年度補正予算案
 5. 2008年度事業計画
 6. 2008年度予算審議
 7. 研究助成金対象研究の選定
 8. 日本養護教諭教育学会会則及び同会則実施細則の改正
 9. 選挙管理委員の選出
 10. その他

役員を選出にかかわる規約等の 改正（案）について

理事長 後藤ひとみ

昨年の総会で役員（理事）の選出を推薦制から選挙制に変更することを提案し、推薦委員会を廃止して選挙管理委員会を設置するという会則改正を行いました。これに伴い、2007年度事業として「次期役員を選出にむけた委員会」の発足を掲げました。

そこで、理事会で委員の構成を協議し、理事長・庶務担当理事・学会活動担当理事・事務局長に前理事長を加えた5名による「役員選出規約検討小委員会」を設置しました。

小委員会による原案をもとに検討した結果、10月の総会では次のような内容を提案したいと考えています。

<会則・実施細則の改正について>

①会則の中の「役員の任期は3年とし、再任を妨げないが連続3期に及ぶことはできない。」という規定では6年後に役員の大半が入れ替わる可能性があり、学会運営に支障をきたすことが予想される。しかしながら、理事長は連続2期までで交代するほうが良い。よって、「役員の任期は3年とし再任を妨げない。ただし、理事長は連続3期に及ぶことはできない。」に改正する。

②実施細則の中の「有権者」、「被選挙権を有する者」、「選挙管理委員」に関する説明を明確にする。選挙管理委員については「引き続き2年以上会員であった者」を「引き続き3年以上会員であった者」に改正する。

<選挙管理委員の選出について>

複数のブロックからの選出が望ましいが、委員会開催の移動時間や交通費を勘案して、隣接する2ブロックから各2名計4名を選出する。具体的には、北から輪番とし、「北海道・東北」と「関東」、「中部」と「近畿」、「中国・四国」と「九州」の組み合わせで行う。

<理事の定数について>

会則の「学会構成員の比を反映させて各ブロック1～2名」という規定に則り、会員数が最多のブロックを定数2名として、会員数が半分以下のブロックは定数1名と考えている。なお、現時点では各ブロックの会員が65名～150名の範囲にあることから、今回の選挙では100名以上を2名とする案もある。役員選出規約検討小委員会においてシミュレーションを行い、どちらかの基準で算定することを提案したい。

<選挙等の日程について>

- 2007年12月：委員の互選により選ばれた委員長がハーモニー発行時に役員選出を告示
- 2008年4月：事務局は年度内に2007年度会費を納入した会員を確認して「有権者名簿」を作成
- 2008年5月：選挙管理委員会は「有権者名簿」をもとに「被選挙権を有する者の名簿」を作成し、ハーモニー発行時に会員宛に送付して所属ブロック等を確認

- 2008年7月：選挙管理委員会は各ブロックの理事定数を確認し、「被選挙人名簿」と「投票用紙」を有権者に送付
- 2008年8月：選挙管理委員会は投票用紙を回収、開票、集計して、ブロックごとの得票数の多い順に理事就任の意向を確認
- 2008年10月：選挙管理委員長は総会で新理事の氏名を公表し、選挙管理委員は解任。現理事長によって新理事が総会后に招集され、次期理事長を互選
- 2009年4月：新理事会の体制を協議
- 2009年5月：新役員体制（理事長、常任理事、理事、監事）をハーモニーにて公表

以上です。ご意見・ご質問がございましたら9月25日（火）までにFAXまたはEメールにて学会事務局までお知らせください。

◆◆◆◆◆ トピックス ◆◆◆◆◆

中教審「スポーツ・青少年分科会」における 学校健康・安全部会の動向

徳山 美智子（大阪女子短期大学）

周知の通り、昭和22年に制定された教育基本法が、60年振りに全面的に改正され、教育3法の改正等、様々な教育改革が進められています。

そのような中で、平成19年3月29日に文部科学大臣より中央教育審議会に、「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」諮問されました。今般の諮問理由には、子どもを取り巻く生活環境が変化する中で、子どもの心身の健康、安全・安心に関する様々な課題が生じており、その課題の解決のために一部の教職員が個々に対応するだけでなく、養護教諭や栄養教諭などを中核としつつ、全教職員のそれぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携の在り方を探求した上で、学校全体の取組体制を整備することが必要であり、地域や家庭との連携・協力による総合的な取組が求められている。健康課題への取組は、正しい理解に基づく迅速かつきめ細かい対応が必要であり、日々の健康観察において、子どもの示す表情や行動のささいな変化に気付き、課題を把握し、的確な対応を図ることが求められる。また、子どもの心と体の悩みや痛み適切に応える健康相談活動を充実・強化していかなければならない。さらに、健康を維持するためには望ましい食習慣を身に付

けることが必要であり、食育の生きた教材である学校給食の果たす役割について改めて検討することが求められていること、などが盛り込まれています。この諮問を受けて学校健康・安全部会が開催され、7月中旬までに第1・2回の議事要旨がインターネット上で公開されていました。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/gi_jiroku/

以下はその議事内容の要点を羅列したものです。保健主事制度の充実。養護教諭の職務内容の明確化と法制度の整備。「養護」には教育機能を有することを明確化。保健室・養護教諭の業務の拡大における養護教諭の複数化と研修の充実。一般教諭の保健主事と看護資格を持つ養護教諭とがペアで活動してチームで問題解決にあたる。養成課程のカリキュラムを充実し学習指導要領の理解を深め、健康教育の指導力を担保する必要性、看護学10単位を学校現場に即した内容とすること。短大等多様な場で養成されていることについて。学校地域保健連携推進事業をさらに拡大すること。小児科医を学校医として配置する必要性。学校保健を充実・整備する方策として人、予算、法整備が必要であること。学校保健安全計画に関すること、危機管理マニュアル作成の重要性、健康教育のエビデンスを集める必要、学校保健委員会の活性化。学校環境衛生の維持・改善における学校薬剤師の役割の重要性。食育の生きた教材である学校給食の重要性。さらに、平成9年の保健体育審議会答申の評価についても行う必要がある、としています。

以上、多岐に亘る議論の中で、養護教諭のことが取り上げられていることは喜ばしいことですが、現時点では、どのような方向性を目指した改革であるか明らかではありません。今後も情報を共有し、積極的な意見交換を図って行きたいものと考えます。(追補：7月18日に第3回、8月7日に第4回が開催されました。)

特別企画 私の県の「ここが特色」⑤

青森県総合学校教育センターに 養護教諭経験者指導主事配属

浅利 恵子

(青森県立弘前第一養護学校)

青森県教育委員会の研修機関として、青森県総合学校研修センターがあります。養護教諭を含む教員に研修を提供しています。養護教諭に関して

は、新採研、5・10年研、教育相談にかかわる研修等々です。しかし同センターに養護教諭経験の指導主事がないため、希望する研修がなかなか実現しません。青森県養護教員会では、多様化する養護教諭の職務の中で、ひとりひとりの子どものニーズに合った支援をするために、種々の研修の必要性を感じ、毎年「研修内容の充実について」の要望書を県教育委員会へ提出しています。同センターに養護教諭経験の指導主事が配属されていれば…と思うことが度々あります。

その思いが遂に今年度叶えられ、教育相談課指導主事として三上純子先生が配属されました。私たちには心強く、更なる研修への期待が膨らみます。主な職務内容を伺いましたので紹介します。

- ①教職員研修講座の構築、運営、講師
- ②課内研究メンバーとしての研究
- ③適応教室指導
- ④電話相談
- ⑤教育相談に関わる様々な情報の蓄積
- ⑥研究員の研究支援
- ⑦外部依頼研修会講師

等です。また、「養護教諭の健康相談活動と生徒指導・教育相談との関係、保健室（養護教諭）が子の幸せのために、学校組織の中でどう繋がり、他とどう繋いでいくか、教育相談課の中で“養護教諭としてのアイデンティティー”を失うことなく専門性を深めていきたい。また、養護教諭の専門性で、教育相談課で貢献できることも実証したい」というお話がありました。私達も気軽に相談できる窓口が出来たことを嬉しく思うとともに、養護教諭の研修充実へ大きな期待をしています。

◇◇◇ 新・特別企画 ◇◇◇

「私の実践と研究」 リレー・レポート③

前号でリレー・レポート②をご担当くださいました大家さとみ先生が、ご紹介くださいました。

—活動を中心とした保健学習—

柴崎卓巳子

(福岡県田川郡赤中学校)

私は楽しい保健の授業を目指して、2003年7月に思考力を高める「ゲームで保健の授業」の本に実践の一端を書いた。

昨年からは「ワークショップ型授業」を研究し

ている。ワークショップ型授業とは、従来の「説明中心の授業」「発問中心の授業」に対して、「活動中心の授業」である。つまり、大半が活動で占められるような授業である。短い言葉で定義すると、次のようになる。

自由度のある「活動」を通して学ぶことで、
関心・意欲・態度を基礎とした主体的な学び
の力を育てる。

従来の授業は、知識や技能を安定的に伝えられるのが特徴である。一方、ワークショップ型授業は、体験を通じた気づきにより、納得を伴った理解を生むことができる。

ワークショップ型授業の基本構想(授業モデル)は、「説明+活動+ふり返し」である。

ワークショップ型授業における、学びが生じる仕掛けをひと言で言うと次のようになる。

自由感のある活動を体験することで、主体
的な思考が発動し、知的な気づきに至る。

(引用：上條春夫編著「ワークショップ型授業で国語が変わる」2004, 図書文化社)

今年7月末に、「ワークショップで保健の授業」(東山書房)が本になった。全国のトップレベルの養護教諭10人による授業だと自負している。是非、手にとってもらいたい。

授業に活動を取り入れ、試行錯誤をする学び方は、生徒たちの中に「本当にわかる」「腑に落ちる」「考えることが楽しい」という「感情を伴った知的気づき」が生まれていることは確かだ。

実践の中で、授業評価や実態に応じた授業の素材研究などの課題もたくさん見つかった。

これから、エビデンスを伴った評価や効果をまとめる。厳しいご指摘も期待している。

学会誌第11巻第1号の 投稿原稿受付中

～締め切り迫る～

「日本養護教諭教育学会誌」第11巻第1号の原稿を募集しています。原稿の種類は、論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。

年間を通して受け付けていますが、第11巻第1号の原稿の最終締め切りは、2007年9月30日です。期日が迫っていますので、会員の皆様は奮ってご投稿ください。会員の皆様の投稿をお待ちし

ています。詳細については学会誌第10巻第1号に掲載の「投稿規定：最終改正2006年10月9日」並びに「論文投稿のしかた」、または学会HPをご覧ください。

ご不明な点がありましたら、学会事務局または編集委員会にお問い合わせください。

—積極的な投稿をお待ちしています—



理事会からのお知らせ

第15回学術集会一日目にプレコンgresとして、本年3月末に発行した「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」に関する意見交流の場を設けます。

記載内容や今後の活動について自由に語り合いたいと思います。是非、ご参加下さい。

事務局からのお知らせ

* 総会に向けて会員の確認をします。

総会は会員参加による議決の場です。今年度まだ会費を納入されていない方は、お近くの郵便局からお振り込みください。入れ違いに送金いただきました折は督促の失礼をお許しください。

* 総会の委任状を同封いたしました。

総会を欠席される方は委任状の提出をお願い致します。お手数ですが、50円切手を貼ってください。9月30日までに、ご投函をお願いします。



長梅雨・地震・台風・異常気象と春以降さまざまな生活に影響を及ぼすことが続いています。会員の皆様におかれましては、いかがでしょうか。

本号では学術集会のプログラムを掲載しました。ご覧になられまして、計画や準備を早めにてられてください。札幌のPORTでお目にかれますのを楽しみにしております。(F)

